

緊急要請書

熊本地震の余震が続く中、川内原発1・2号機の継続運転に抗議する！ 川内原発の運転を直ちに停止せよ！

九州電力代表取締役社長 瓜生道明様
内閣総理大臣 安倍晋三様
経済産業大臣 林幹雄様
環境大臣・原子力防災担当大臣 丸川珠代様
原子力規制委員会委員長 田中俊一様

2016年4月21日

玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会／今を生きる会
戦争と原発のない社会をめざす福岡市民の会／東区から玄海原発の廃炉を考える会
プルサーマルと佐賀県の100年を考える会

4月14日夜9時26分、熊本県益城町を震源とする震度7(マグニチュード6.5)の大地震が発生しました。余震が続く中、再び16日深夜1時25分、南阿蘇村を震源とする震度7(マグニチュード7.3)の地震が襲い、停電、断水、火事、土砂崩れ、橋崩壊、道路寸断、家やマンションの倒壊…と凄まじい被害となりました。鉄道も道路も空路もマヒ避難どころではありませんでした。余震の恐怖に、野外で一夜を越す住民がいっぱいでした。建物の下敷きになったり孤立したりと救助隊を待つしかない住民も多数いました。高齢者や障がいがある人、幼子を持つ家族や妊婦の避難は困難を極めました。あの、けたたましい緊急地震速報の音が耳から離れません。

この上に原発事故が起きればどうなっていたか、九州中のみならず日本中の人たちが怯えました。福島では、地震・津波から逃げる最中に住民に放射能が襲いかかり、被ばくを強いられることとなったことをみんな知っているからです。

しかし、九州電力は14日夜10時頃、「川内原子力発電所1、2号機とも通常運転継続中、玄海原子力発電所は停止中であり、設備点検を行ない、プラントの状態等に異常は確認されていない」と発表。「通常運転継続中」とのことに私達は仰天しました。原発には何万本という配管があります。あれだけの大きな地震が起きた直後に止めもしないで、わずかな時間でどれほどの点検を行ったのでしょうか。

今回の地震は熊本のみならず大分でも連動して発生したり、後で起きた「余震」が「本震」とされたり、専門家の予想を超えるような動きをしています。さらに川内原発は日本列島を横断する中央構造線という大きな活断層の南端に位置しています。大地震が原発の直下で起これば、巨大な揺れに襲われ、放射能を大量に放出するような大惨事となるのは避けられません。川内原発には火山噴火が襲いかかることだってあるのです。

菅義偉内閣官房長官は16日に「川内原発を停止する理由はない」と述べました。18日には田中俊一原子力規制委員会委員長は「安全上の問題は起きない」と繰り返した上、「科学的根拠がなければ、国民や政治家が止めてほしいと言ってもそうするつもりはない」とまで述べました。未だ計り知れない地震発生状況を過小評価し、万が一の危険を想定して防ごうとしない政府と九電の傲慢な態度に私達は怒りを禁じ得ません。

熊本地震、5年前の東日本大震災を経験した私達は、原発事故が地震などとの複合災害となる可能性が非常に高いことを身をもって経験しました。「想定外」という言い訳は、もう許されません。

“第二のフクシマ原発事故”は許されません。

命を脅かし、ふるさとを奪う原発は、もう動かしてはならないのです。

今回の地震の被害を踏まえて、川内原発の運転を即刻停止するよう、以下の通り強く要請します。

■質問事項

地震直後にどれだけの時間と人員をかけてどのような点検を行った上で安全だと判断したのですか。

■要請事項

1. 九州電力川内原発1・2号機の原子炉をただちに停止し、すべての配管の状態や建屋施設について点検し、結果を明らかにすること。
2. 九州電力玄海原発について、すべての配管の状態や建屋施設について点検し、結果を明らかにすること。
3. 専門家の知見をもとに、起こりうる地震の規模や影響を改めて検討し、住民の命を守る「具体的で可視的な避難計画」を策定すること。

連絡先 玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会
佐賀市伊勢町 2-14 TEL:0952-37-9212 saiban.jimukyoku@gmail.com